

エコキャップ運動 テキスト 1

* エコキャップ運動の概要 *



NPO法人
エコキャップ推進協会

エコキャップ運動テキスト目次

* エコキャップ運動の概要 *

エコキャップ運動の展開	2
エコキャップ運動を正しく理解するには	3
女子高生のもったいないから始まった	4
エコキャップ運動の基本を学ぶ(エコキャップ推進協会の沿革)	5,6
活動のきっかけ ～ 子ども達の声に耳を傾ける ～	7
運動の広がり ～ 子ども達の活動を支援する ～	8
持続可能な環境社会の確立へ	9
新たなる挑戦	10
商品化への挑戦	11～13
ブロック制と組織改革	14,15
上海のエコキャップ運動	16
エコキャップ運動の登録商標について	17

エコキャップ運動の展開

私たちは、子どもの声に耳を傾けているでしょうか。
私は、子どもたちの素朴な疑問に耳を傾けることの重要性を感じています。

エコキャップ運動は、ペットボトルの分別活動の中でキャップが燃やされていることを知った神奈川県的女子高校生たちの「キャップをリサイクルすることはできないか」という声から始まりました。

その話を聞いた横浜の戸部小学校の児童が自主的に地域に啓発活動を行い、3ヶ月間で26万個のキャップを収集し、NHK「週刊こどもニュース」がその活動を取り上げると、全国の小中学校へと広がりました。

その後、公共広告機構・日韓共同キャンペーン「エコライバルになろう」のCMやJR東日本の車内モニターでPRされると全国的に認知度が高まりました。

子どもたちが環境のことや世界の貧困について学び語り合い、その課題解決の一助になりたいと、地域ボランティアの方々や企業CSRとの連携支援で更にこの運動は広がりました。

こうした子どもたちの純粋な想いと力は、ペットボトルのキャップのリサイクルという新しいビジネスモデルとリサイクルの技術革新をもたらしました。

そして積極的にエコキャップ再生ペレットを活用した商品開発を推進する企業が増えてきています。

この運動を通じて、地域社会や企業が子どもたちの想いと力を支援するという社会貢献モデル構築ができました。

子どもたちの発想や力が社会に一石を投じ、リサイクルの技術革新までもたらした訳です。なんと素晴らしいことでしょう。

子どもたちは時として素朴な疑問を投げかけ、大人が想像もしない発想をします。

未来を担う子供たちの声に耳を傾けましょう。

そして今、この運動が海外に広がろうとしています。

子どもたちの発想で生まれたこのエコキャップ運動の理念、目的、システムをより多くの方々にご理解いただくために、このテキストを作成しました。

NPO法人 エコキャップ推進協会
理事長 矢部 信司



エコキャップ運動を正しく理解するには

エコキャップ推進協会では、地域・学校・企業で、エコキャップ運動の理念・目的・システム等を、より多くの方々にご理解いただくための啓発活動を行なっています。

◇NPOの在り方

日本のNPOの考え方は遅れていると言われていています。NPOと言うと行政の補助金で活動したり、寄付金を集めて運営すると考えている方々も多いです。

欧米のように、自ら収益性のあるビジネスを考えて、その利益でNPOのミッションを達成していくという成熟した経営が必要とされています

1 エコキャップ運動の4つの目的

- ・リサイクルの促進
- ・CO2の削減による環境保護活動
- ・国内外の子どもの医療支援や生活支援
- ・障がい者・高齢者の雇用創出

2 キャップリサイクルによる循環型社会の実現

3 エコステーション(障がい者の雇用創出)、エコファクトリー及び回収業務(高齢者雇用創出)、により再生材の基準を設定し再生品化率を高める

4、単に収益を寄付するのではなく、社会が必要とする子どもの医療支援、生活支援を自ら行動する。



女子高生のもったいないから始まった

エコキャップ運動は、2005年、神奈川県
の女子高生が「**キャップを捨てるのはもった
ない！これを集めて何か出来ないか？**」と
考えたことが始まりです。



この話を聞いた数名の大人が、リサイクル会社に
「**キャップをリサイクル原料として活用できないか**」と
呼びかけ、実際に活動が始まりました。

その活動とは・・・？

- ・リサイクルの促進
- ・CO2の削減による環境保護活動
- ・国内外の子どもの医療支援や生活支援
- ・障がい者・高齢者の雇用創出

その結果・・・

**資源の有効活用
持続可能な環境社会の実現
社会貢献活動の推進**

エコキャップ運動の基本を学ぶ

エコキャップ推進協会の沿革 ～エコキャップ運動の始まりから現在まで～

年 月	活 動 内 容
2005年5月	”ペットボトルのキャップを集め、ワクチンに換える運動を始めよう”といくつかの団体に活動への参加を呼びかけた
2005年7月	呼びかけに応じてくれた、下記の2ヶ所で活動を開始 ①神奈川県立神奈川総合産業高校(相模原市) ②大東文化大学練馬キャンパス/中板橋商店会(板橋区)
2006年1月	取り組みを促進させるために、2006年1月1日付けで組織を編成。任意団体「エコキャップ推進全国連絡協議会」を設立
2007年4月	この運動が全国に広がり、名称を「エコキャップ推進協会」としてNPO法人化を検討開始
2007年8月	2007年8月30日「エコキャップ推進協会」を設立
2007年11月	2007年11月16日内閣府にNPO法人(特定非営利活動法人)の認証を申請
2007年12月	「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)」への寄付活動を開始。 キャップ回収総量:9,442,676個 寄付金:236,060円(ポリオワクチン:11,803人分)
2008年2月	2008年2月8日内閣府よりNPO法人(特定非営利活動法人)を認証される
2011年5月	2011年3月11日の東日本大震災で被災された宮城県へ、5月14日義援金1,000万円を寄付
2011年7月	2011年3月11日の東日本大震災で被災された 岩手県へ、7月15日義援金1,000万円を寄付 福島県へ、7月27日義援金1,000万円を寄付
2011年9月	2011年3月11日の東日本大震災で被災された 茨城県へ、9月16日義援金1,000万円を寄付。義援金計:4,000万円
2013年8月	2013年8月「NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)」に第11回目5,000,000円を寄附 ワクチン代寄付金計:124,603,902円ポリオワクチン:6,230,195人分
2013年9月	障がい者支援のための寄付活動を開始 「一般社団法人 障がい者自立推進機構」に3,000,000円を寄付
2013年12月	2013年12月「一般社団法人 障がい者自立推進機構」に第2回目800,000円を寄付 障がい者支援寄付金合計:3,800,000円

年月	活動内容
	ポリオの感染者数は1998年当時と比較して99%削減され、根絶は実現可能な目標としてとらえられるようになった
2013年4月	発展途上国に対して、その国が必要とする医療支援についてアンケート調査開始
2013年5月	本来の環境NPOとして、エコステーション構想・エコファクトリー構想の強化、全国の物流システムの改革等の改革等のインフラ整備を強化することを決議
	働く職員の最低限の雇用条件の改善を図る
2014年5月	知的障がい者絵画展支援を強化
	障がい者・高齢者雇用の具現化に向けて活動開始
2014年7月	知的障害者300人をポリシヨイサーカスに招待 参加者に絵を描いていただく
2014年10月	知的障がい者アート展を横浜マリニタワーで開催および表彰式等実施
2014年10月	障がい者雇用創出、高齢者雇用創出を重点プロジェクトとして推進
2014年12月	JCVより年間3000万円寄付の強要。弁護士を通じてこれを拒否 これまでの寄付の利用についての報告を求めるが回答なし
2015年1月	ブータンヘルス信託基金に寄付決定
2015年2月	大黒ふ頭にモデルとなるエコファクトリーの建設構想
2015年4月	朝日新聞の報道(取材根拠なし)
2015年5月	スポンサー企業やキャップの寄付の激減及び業者支払い拒否
2015年8月	政策金融公庫よりエコファクトリーの設備予算等の融資決定
2015年8月	外国人記者クラブにてブータンヘルス信託基金に寄付(500万円寄付)
2016年2月	大黒ふ頭にエコファクトリー開設(高齢者雇用創出の実現)
2016年5月	口唇口蓋裂協会の海外支援に50万円寄付
2016年8月	組織改革・事務所移転などの経費削減計画を理事会決議
2016年10月	参加者の増加傾向
2017年1月	朝日新聞の報道(他のメディアによる報道は確認できず)
2017年5月	佐川急便配送サービススタート

活動のきっかけ ～ 子ども達の声に耳を傾ける ～

エコキャップ推進協会の活動は神奈川県的女子高校生たちの「キャップを捨てるのはもったいない」という意見から始まりました。

この女子高生たちはゴミの分別で「再資源化」できることを実証するためペットボトルとラベルとキャップに分けて、市の資源化に持ち込んだそうです。

その時、対応した職員が「ペットボトルは売れるからここに 後の物は燃えるゴミでいいよ。」と答えたそうです。大人だったら社会はそんなものだろうと思うのですが、女子校生の研究発表では大人の言うことの矛盾が伝わってきました。

そのとき、我々大人が「世の中ってそんなものさ」と思ったらこの運動は始まっていません。

”ペットボトルのキャップ”を一般ゴミとして捨てるのはもったいない。これを集めて何かできないか？ これがキャップを集め始めたきっかけです。

この意見を聞き流してしまったら、それで終わってしまう話ですが、話を聞いていた数名がリサイクル会社に「キャップをリサイクルして活用する方法はないか」と呼びかけました。その結果、全国のリサイクルに関連する企業の協力をいただき、キャップを集めて積極的に再資源化するという活動がスタートしました。また、集めたキャップをリサイクル原料として有償で買い取ってもらえることになり、その売却金を国内外の子どもたちへの医療支援や東日本大震災支援、障がい者自立支援等に寄付するという流れが確立し、初期のエコキャップ運動の骨子が完成しました。



運動の広がり ～ 子ども達の活動を支援する ～

エコキャップ運動が始まって間もない頃、横浜市西区にある戸部小学校で総合学習の一環としてエコキャップ運動の出前講座が行われました。この運動に興味を持った児童が、自分で模造紙の説明資料を作り上げて、エコキャップ運動への協力を呼びかけました。子ども達の自主的な取り組みに感動した連合町内会長の計らいもあって、小学校を中心とした町ぐるみの活動となり、短期間で膨大な数のエコキャップ回収が実現しました。

こうした取り組みをNHKが、「週刊こどもニュース」の題材として取り上げて全国区で放送。瞬く間に全国の小学生たちに「エコキャップ運動」が広がり、神奈川県の一地域で行われていたエコキャップ運動は、日本全国の子ども達が取り組む運動へと発展しました。

エコキャップ運動は、子どもたちの意見を傾聴し、子どもたちの行動を大人たちが支援するという姿勢を貫いています。学校の先生や地域の団体、そして企業が、未来を担う子どもたちの意見に正面から向かい合い、その取り組みに協力する。それがエコキャップ運動の本質であり、この運動が大きく発展した要因となっています。



エコキャップ運動を始めた当時の児童達



エコキャップ運動を始めた当時の児童達

持続可能な環境社会の確立へ

エコキャップ推進協会では、学校、企業、団体、個人よりご提供されたキャップを地域の障がい者施設で異物除去、色分別、シール剥がしなどの丁寧な作業を行ってもらっています。リサイクルの過程でこの作業は重要な作業です。

また、学校や企業、団体等の全国の障がい者作業所と連携して、その輪は全国に広がっています。

キャップの回収や障がい者施設への業務依頼、破碎等の作業を担当するのが60歳以上のシルバー世代が構成するチームです。シルバー世代の方々は経験も豊かです。提供者の方々や障がい者施設を繋ぐ重要な役割をしています。これが2つ目の社会貢献であり、高齢者雇用創出になっています。



持続可能な循環型社会を創造するには、チップやペレット化の全国的な標準規定を制定するための業界団体のルール作りが必要となりました。

これらは、全国の優良企業・CSRで参加する企業で団体を設立((一社)エコキャップリサイクル推進機構)することで活動を開始します。

単にキャップを集める初期の段階から、製品化の具体的な推進に活動は進んでいます。

メーカーと協議して積極的に製品化を推進すること、そして市民に還元することまでの責任を啓発することが、NPO法人エコキャップ推進協会の「リサイクルの市民啓発」です。

新たなる挑戦

埼玉県川口市にある製造工場と、分別されたチップから直接製品をつくる実証実験を行いました。

通常はペレットから製品にするのですが、異物除去・色分別・シール剥がしをしたチップは素材が安定していますので、バケツなどの日用品は安価で製造することができます。



障がい者施設(エコステーション)で、異物除去・色分別・シール剥がしをしたチップで直接製品を造るといふ挑戦は成功しました。



キャップそのままの色で、左のようなバケツを製造することができました。

ゴミを分別すれば、それは資源となり、異物除去・色分別・シール剥がしなどの丁寧な作業をすることによって直接製品にもなります。

商品化への挑戦

キャップの再生材を使用して、マクドナルドのトレイにする話がありました。キャップの再生材でテスト品を制作して、お店で試験的に使うところまで進みました。しかし、マクドナルドが使用する大量のトレイを製作するほどのキャップが集まらず、残念ではありましたが製品にはなりませんでした。しかし、安全基準が高いマクドナルドで安全性の合格を頂き、店舗でのテスト運用まで漕ぎ着けたことは大きな励みになりました。



これをきっかけに、国内の家電メーカーや自動車メーカーがキャップの再生マテリアル活用を検討し、色々なメーカーがキャップを使った製品化に挑戦してくれるようになりました。

協会が発足して数年の年月を要しましたが、女子高校生の感じたリサイクルの矛盾が、解決に向けて具現化していく段階となりました。



子どもたちが集めたキャップを、子どもたちが日常生活で使用する商品にするのが、リサイクルの仕組みとして「わかりやすい」ということになり、文具や日用品にしてきました。

この写真は、株式会社サクラクレパスのご協力で製作したボールペンです。ノベルティーや事務用品として販売され、キャップを原材料とした商品の企画が進んでいます。

これらのボールペンは事務用品として使用される以外に、エコキャップ運動に参加している企業・団体等が、右下の写真のようにノベルティーとして積極活用しています。これにより企業内のエコ循環が実現しているのです。





ヤマハ発動機はエコキャップを
はじめリサイクル材料の活用を
積極的に展開しています。



ヤマハ発動機のバイクはエコキャップを積極的に使用しています。バイクのフェンダー(泥除け)やシートプレートなどに採用していただいています。これらのActivity FirstがCO2の削減・温暖化の削減に大きく寄与しています。

エコキャップ推進協会は、単にキャップを集めて寄付する団体ではありません。

リサイクルの促進、持続可能な循環型社会の確立などの事業を推進しながら、収益を上げて社会貢献をする自立型のNPO法人です。

その為に日々の啓発活動を行っています。



このプロジェクトを推進する中で、障がい者・高齢者の雇用を創出し、国内外の子どもの医療支援・生活支援をしていくことが重要です。

ブロック制と組織改革



ブロック制と組織改革

全国をブロックに分けて、再生素材として活用できるキャップの標準化とサービスの一律化を実施するために、全国を支部からブロック制に変更します。

構成会員は、リサイクルに関連する優良リサイクル企業と企業団体のCSRとして参加いただいている4万6千社を対象に社団法人化していきます。

従来のエコキャップ推進協会はNPO法人として、市民に対するエコキャップ運動の従来通りの啓発活動を行っていきます。



NPO法人エコキャップ推進協会

NPO法人エコキャップ推進協会

リサイクルの促進
CO2の削減
国内外の子どもへの医療支援・
生活支援
障がい者・高齢者の雇用創出



一般社団法人
エコキャップリサイクル推進協議会

**一般社団法人
エコキャップリサイクル推進協議会**

優良リサイクル業者の育成
原材料の統一化
ブロック制によるエリアマネジメント
CSR参加企業への啓発
エコキャップ新聞の発行

上海のエコキャップ運動

上海市は人口 戸籍人口(2010)1,412.32 万人、常住人口(2014) 2425.68 万人 市区人口(2014)1870 万人 都市化率(2006) 88.7% のアジアの中でも巨大都市の1つです。上海の国際学校の高校生を中心に、エコキャップ運動がスタートしました。今後は、上海にある他の国際学校への運動の参加の呼びかけ、その後上海の高校生(中国人の為の)に展開していく事業計画だそうです。



国内外に限らず、子どもたちの柔軟な発想と行動力には驚くものがあります。間違いなく上海でもエコキャップ運動は発展し、企業を動かしていくことでしょう。すでに上海のリサイクル会社とは支援の話が完了しています。国際学校の高校生たちはCO2削減問題や大気汚染について、非常に身近な問題だととらえています。

エコキャップ上海は、ikki Chiba・Yuan Yu Min Vivian・Yuan Terumi Chiba三人が代表です。彼女たち3名が中心となって、上海中学校国際部(英文略称SHSID)の学生たちにエコキャップ運動は広がり、その他のインターナショナルスクールにも爆発的に拡充しています。上海中学校は創立151年の歴史のある名門校です。学生数3200名、中国以外に約53か国からの学生で構成されています。

10年前に日本の女子高生が分別やりサイクルに疑問をもったこと、そして戸部小学校の5年1組の児童が地域の大人たちに自らプレゼンテーションして3か月で26万個のキャップを集めてNHKの週刊こどもニュースに取材されたこと、そして今、上海の上海中学校国際部の生徒のみなさんが日本のこのニュースを知り、自ら上海でエコキャップ運動の啓発活動をスタートさせたことは、子どもたちの柔軟な発想と驚くべき行動力だと賞賛いたします。

彼女たちが大人になるにつれて、この柔軟な発想と行動力がやがて中国の企業を動かして、再生品化するだけでなく、CO2の問題解決、大気汚染の問題解決の先鋒になって新しい中国・リサイクル先進国になることも夢ではないと予感させてくれます。エコキャップ推進協会は急激に大きな組織になってきました。

今、理事会で論議し、日本国内はブロック制に移行し始めています。私たちはエコキャップ上海も、このブロックの1つだと位置づけています。

エコキャップの商標登録について



エコキャップは、特許庁に商標登録してあります。

しかしながら、近年エコキャップと称して、キャップを横流しや当団体に登録なく、回収したり、協会から離反して自社の利益とする悪徳業者がいます。

これらは、受領書が届かないという提供者のご連絡から発覚しています。

朝日新聞のミスリード記事が、これらの悪徳行為を助長させていることが原因です。

1月の朝日報道に対して、間違いを認めないことは大変遺憾だと思います。

政策金融公庫の借り入れは、高齢者雇用のモデルを創るためのエコファクトリーに使われており、借り換えなどもしていません。これらの報道に対して他のメディアの反応は連動せず、あたかも詐欺行為によりに報道された私理事長も処分されていません。残念なのが、無責任な報道は真相をわからない方々には悪い印象を与えることです。